

松戸市の認知症施策について

H30年度 松戸市認知症研究会



松戸市 福祉長寿部
高齢者支援課

【高齢者の状況】

総人口：494,733人

高齢者人口：124,826人
(高齢化率：25.2%)

後期高齢者人口：60,430人
(後期高齢者割合：12.2%)
(H30.3.31現在人口 住民基本台帳より)

認知症高齢者の状況

○要介護・要支援認定者数：20,153人 (H30.3.31現在介護保険事業状況報告より)

○認知症高齢者日常生活自立度Ⅱ以上の割合：11,504人
(H30.7.4時点におけるH30.4.1の認定者を抽出)

※認知症高齢者日常生活自立度Ⅱ以上とは、「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さがみられる状態」です。

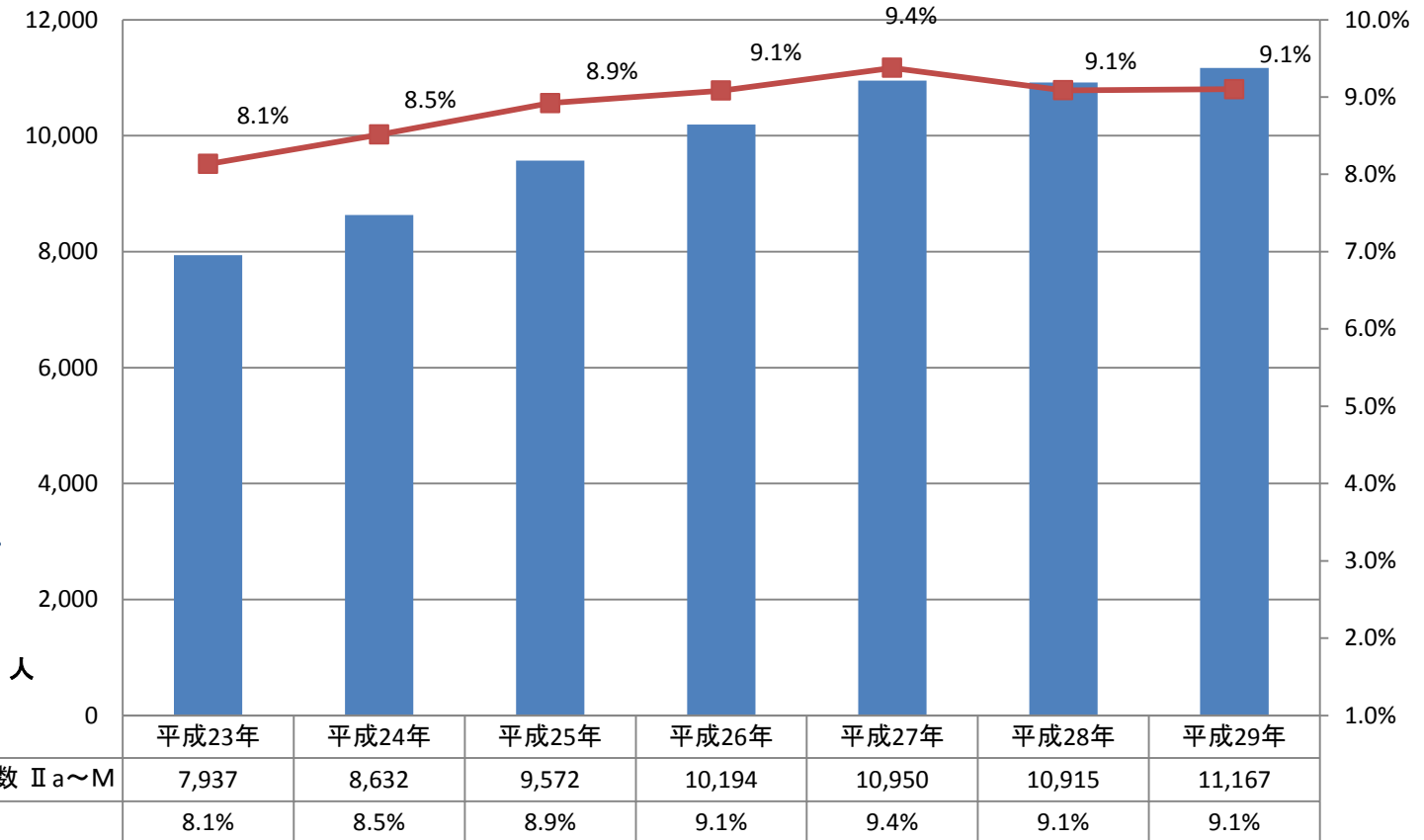
松戸市の認知症高齢者数

認知症高齢者日常生活自立度Ⅱ以上の人数および65歳以上人口
に占める割合

2017
認知症の人：
1.9～2.0万人
(推計)

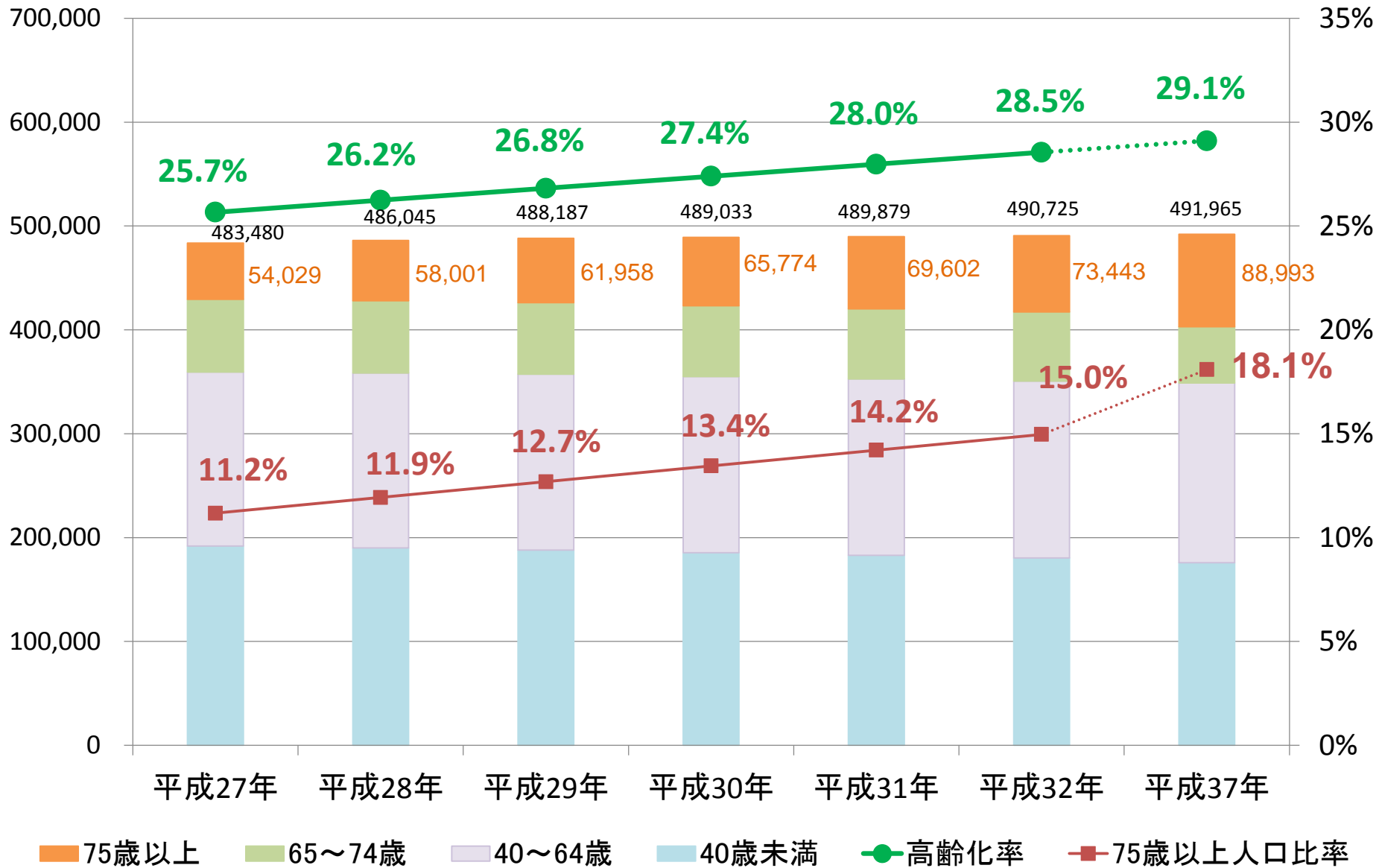
2025年
認知症の人：
2.7～2.9万人
(推計)

「いきいき安心プランVI
まつど」より抜粋



(各年の処理日における、4月1日の認定者を抽出)

松戸市では、今後、75歳以上人口が大幅に増加



※常住人口による推計

※各年10月1日時点

松戸市の認知症施策の理念



認知症を予防できる街 ♥ 松戸

認知症になっても安心して暮らせる街 ♥ 松戸



- 認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会を実現する。

意思決定支援、自立支援、できる限り在宅、
地域包括ケアの実現

認知症施策推進総合戦略 「新オレンジプラン」

7つの柱

- ①認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- ②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
- ③若年性認知症施策の強化
- ④認知症の人の介護者への支援
- ⑤認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- ⑥認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進
- ⑦認知症の人やその家族の視点の重視

松戸市の認知症施策の概要

今後目指すべき基本目標

認知症の症状がある人は、高齢化により年々増加しており、今後もさらに増加することが見込まれる。「認知症を予防できる街♡まつど」「認知症になっても安心して暮らせる街♡まつど」を目指して、関係機関との連携、支援及びネットワークづくりを念頭に置き、認知症の本人や支える家族が何を望み、何に困っているのかという視点に立ち、認知症対策を推進していく。

(1) 認知症への理解を深めるための普及啓発の推進について

- 認知症サポーターの養成
- あんしん一声運動の展開
- 市民への普及啓発

(2) 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供について

- まつど認知症予防プロジェクト
- 認知症初期集中支援チーム
- 認知症サポート医
- 認知症コーディネーター
- 認知症地域支援推進員
- 認知症ケアパス

(3) 若年性認知症施策の強化について認知症の人への支援について

- 若年性認知症カフェ
- 若年性認知症の人への理解
- 若年性認知症のケア

(4) 認知症の人の介護者への支援について

- 介護者への支援
- 介護の負担軽減
- 介護者の集い
- 認知症カフェ

(5) 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進について

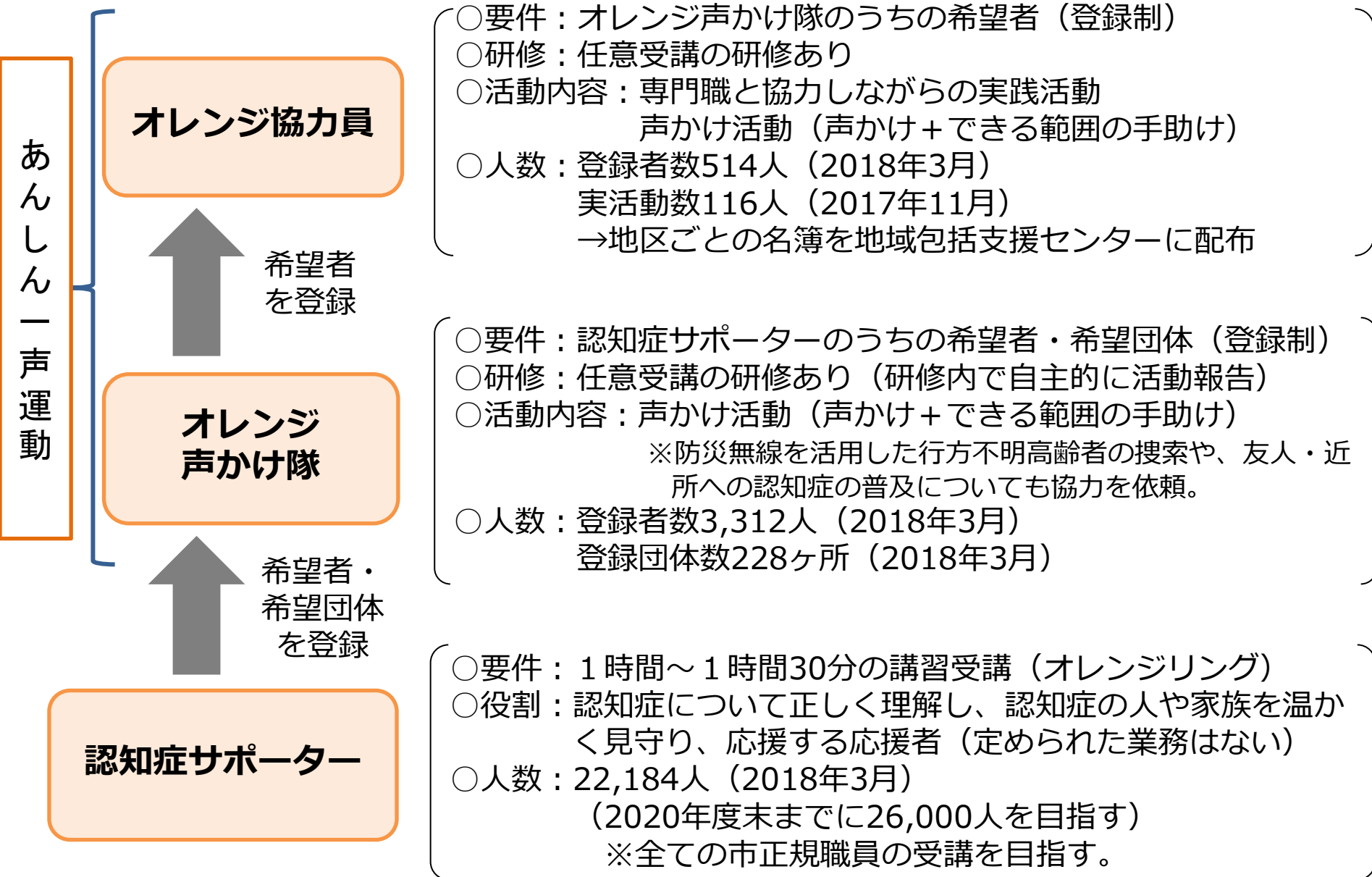
- あんしん一声運動の展開
- 徘徊高齢者防災無線による探索
- 高齢者の見守りシール
- 権利擁護

(6) 認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進について

(7) 認知症の人やその家族の視点の重視について

- 認知症の人の視点にたった認知症理解のための普及啓発
- 関係機関との連携

松戸市における認知症支援の地域人材と今後の方向性



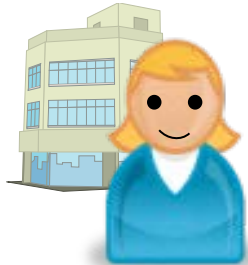
※認知症コーディネーター：地域における認知症支援体制の構築に向けた活動に従事する医療・福祉・介護の専門職（ケアマネ、看護師等）。所定の研修の受講が要件。松戸市に102名いる。



松戸まつり

まつど認知症予防プロジェクトの基本コンセプト

- 認知症の早期支援に関しては、軽度認知症の把握ができていない、医療機関に受診できていない、セルフケアができていないなどの課題がある。
- まつど認知症予防プロジェクトを通じて、これらの課題を解決し、認知症予防を推進する。



実施機関の専門職

- ・ 地域包括支援センター
- ・ かかりつけ医療機関
- ・ かかりつけ歯科医
- ・ かかりつけ薬局
- ・ 介護事業所
- ・ ケアマネ事業所

①早期把握・アセスメント

アセスメントツール：
DASC

②ケアマネジメント

適切な対応につなぐ

- ▶ かかりつけ医など受診
- ▶ セルフケア
- ▶ 介護サービス

③モニタリング



軽度認知症
の方

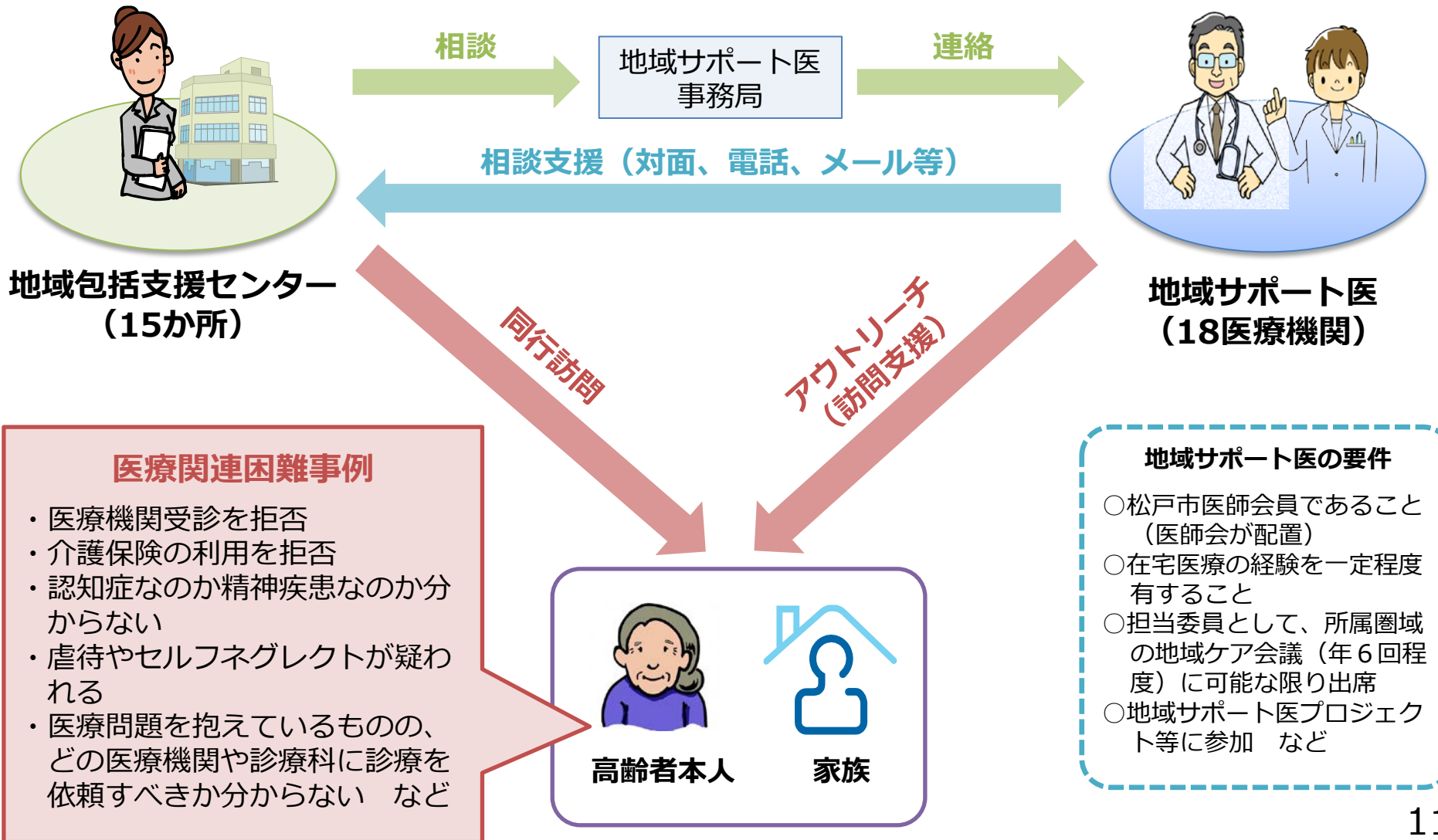
認知機能の維持・改善



※システム構築に当たって、医師会・歯科医師会・薬剤師会・特別養護老人ホーム連絡協議会・介護支援専門員協議会・通所介護事業所連絡協議会等の関係団体と緊密に連携。

地域サポート医の概要（松戸市）

- 地域に存在する医療関連の困難事例等に対して地域包括支援センターが効果的に対応できるよう、松戸市医師会により、包括センターごとに地域サポート医を配置。
- 地域サポート医は、包括センターへの相談支援を行うとともに、必要に応じて、アウトリーチ（訪問支援）を行う。



高齢者の見守りシール

どこシル伝言板[®]の使い方

QRコードラベル
購入

アイロンで貼付

初期設定

➢ 保護対象者・保護者の情報は最低限に限定

初期設定は保護対象者の①性別、②年齢、③身体的特徴、④既往症、⑤保護時に注意すべきこと及び保護者の⑥メールアドレス(3か所まで)を入力します。

保護対象者の個人情報の保護を目的としてニックネームでの設定を行います。ただし、発見者に開示される情報は上記1〜5までですので、上記6は開示されません。

発見時

➢ 保護時に必要な情報のみを共有する

保護対象者については①性別、②年齢、③身体的特徴、④既往症、⑤保護時に注意すべきことの5項目の情報のみが開示されます。

発見者は保護対象者の氏名や住所などの情報を得るよりも、保護時に対応が必要な事象を優先して共有されますので、対応が遅れてしまうことによる保護対象者の二次的な被害を回避することにもつながります。

③「発見者」と「ご家族・介護者」は伝言板サイトを通じてコミュニケーションを図ることが出来る。
(お互いの連絡先などを交換することなく、サイト上のチャット形式でやり取りできる)



連絡

➢ 個人情報が開示されない

保護者と発見者の相互連絡はシステムを経由して行われる為、直接連絡先などの交換(開示)を必要としません。

発見者のアクションは保護者にURL付メールで送信されます。(①QRコードラベルを読み取られた時、②保護対象者の保護情報が入力された時、③伝言板サイトに何らかの記入が為された時にシステムを経由して保護者にメール送信されます。保護者は伝言板サイトに直接入力することが出来る為、1to1チャット様になり取りが可能です。

ご家族・介護者

ご本人

④サイトメールで連絡した後、ご本人を迎えに行く

QRコードは管理システムから払い出される

QRコードは使用開始時に保護連絡サイトにご本人情報(※特徴や既往症などの情報は保護した際に対処が必要な情報のみ、個人が特定できる個人情報は除く。)と保護情報の送信先メールアドレスを登録する。



カメラ付携帯電話・スマホ

発見者

管理・把握

➢ 利用者の全体把握ができる

事務局

- 保護者
- 保護者
- 保護者
- 保護者
- 保護者
- 保護者

事務局は管理下にあるすべての利用者(保護対象者)の行方不明状況を一覧で確認することが出来ます。

事務局＝自治体とした場合、タイムリーに当該サービス利用者の(詳細)一行方不明＝発見(ご家族等への引き渡し)の状況を確認することが出来、「サービスの利用状況」、「サービスの効果」、「発見(ご家族等への引き渡し)の経緯」等、同一システム画面上で全体把握が可能となっています。

認知症簡易チェックシステム

「これって認知症？」「わたしも認知症？」

松戸市ホームページより携帯電話(PCでも可能)を使っていつでも、どこでも簡単に認知症チェックが出来ます。判定結果は3段階で示され、相談窓口も表示されます。このシステムは医学的診断をするものではありませんが、早期発見のツールとしてご活用ください



QRコード↑

これって認知症？ 家族・介護者向け
20問の問診に答えるだけで身近な方々の認知症リスクを確認できます。

<http://fishbowlindex.com/matsudo/ninchisho/>

出典：公益法人

「認知症の人と家族の会」



わたしも認知症？ 本人向け
10問の問診に答えるだけで、本人が認知症のリスクを予測できます。

<http://fishbowlindex.bulog.jp/matsudo/menin-chisho/>

出典：社会福祉法人浴風会病院
名誉院長医学博士 大友英一氏

